

実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備」

◆研究テーマ:「多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究」

研究期間:H27.10~H30.9
委託費総額:11,230千円

<研究代表者>

藤原佳典:東京都健康長寿医療センター研究所

／研究部長

<専門分野>

公衆衛生学, 老年学

<Webページ>

www2.tmig.or.jp/spch/index.html



<研究目的・概要>

急速な少子高齢化や人口減少、財政縮小に直面する我が国においては、高齢者施策単独による地域包括ケアシステムにおける生活支援サービス提供モデルの開発には限界がある。



新しい生活支援サービス提供モデルの開発と多世代で共創する地域づくりのモデル開発を目指す

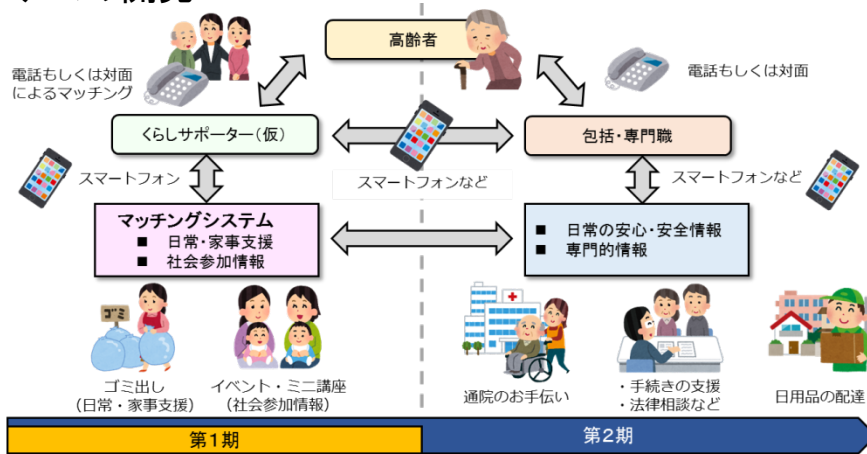
- ・子育て支援と、高齢者の見守り・社会参加支援の二つの分野の融合
- ・民間企業と地域団体の持つシステムと人的資源を融合
- ・多世代の互助活動を基盤にする



民間企業の活力を有効に活用し、安価な生活支援サービスを提供する新総合事業の実装

<研究計画の特徴>

- ・高齢者の生活支援(ゴミ出し等)と子育て支援(急な送迎等)の授受のマッチングを可能とするモデルを開発。
- ・「くらしサポーター(仮称)」(民間企業の子育て支援コーディネーター)が高齢者の生活支援サービスのニーズとサービス提供者をマッチングするモデルの開発。
- ・高齢者の安心・安全な生活に役立つ専門的な情報やサービスに関する地域資源の情報を蓄積するWebシステムの開発



<目標とする研究成果>

- (1) 高齢者の健康・いきがいの向上
- (2) 民間企業の参入による日常生活支援サービスの充足
- (3) 専門職による安心・安全な生活支援サービス提供の効率化